

1 人口動態統計の概況

我が国では、出生・死亡・婚姻・離婚及び死産の5種類の「人口動態事象」について、人口動態統計を作成している。

出生・死亡・婚姻及び離婚については「戸籍法」により、死産については「死産の届出に関する規程」によって、それぞれ市区町村長に届け出られる。市区町村長は、これらの届書及び出生証明書・死亡診断書・死産証書等の関係書類に基づいて「人口動態調査票」を作成する。調査票は、地域保健活動の基礎資料として利用されるため、保健所長を経由して都道府県知事に提出され、さらに厚生労働大臣に提出される。厚生労働省では、これらの調査票を集計して人口動態統計を作成している。

本県及び全国における、平成22年の人口動態の概況は、表1、表2に示すとおりである。

表1 栃木県人口動態の概況

	実数			率					平均発生間隔 平成22年
	平成22年 (A)	平成21年 (B)	増減 (A-B)	平成22年 (C)	全国順位	平成21年 (D)	全国順位	増減 (C-D)	
出生	16,473	17,004	▲ 531	8.3	23	8.6	15	▲ 0.3	31分 54秒
死亡	19,712	18,777	935	10.0	30	9.5	32	0.5	26分 40秒
自然増加	▲ 3,239	▲ 1,773	▲ 1,466	▲ 1.6	15	▲ 0.9	15	▲ 0.7	—
乳児死亡	34	43	▲ 9	2.1	40	2.5	14	▲ 0.4	257時間38分49秒
新生児死亡	15	26	▲ 11	0.9	36	1.5	8	▲ 0.6	584時間
死産	398	399	▲ 1	23.6	29	22.9	34	0.7	22時間 36秒
周産期死亡	63	70	▲ 7	3.8	38	4.1	22	▲ 0.3	139時間 2分51秒
婚姻	10,616	10,687	▲ 71	5.4	13	5.4	13	0.0	49分 31秒
離婚	3,898	3,888	10	1.97	15	1.97	19	0.00	2時間 14分50秒

注: 率算出に用いた人口 人口推計「平成22年国勢調査による基準人口」(総務省統計局) 日本人口(栃木県) 1,980,746人
平成21年10月1日現在推計人口(総務省統計局) 日本人口(栃木県) 1,977,000人

表2 全国人口動態統計の概況

	実数			率			平均発生間隔 平成22年
	平成22年 (A)	平成21年 (B)	増減 (A-B)	平成22年 (C)	平成21年 (D)	増減 (C-D)	
出生	1,071,304	1,070,035	1,269	8.5	8.5	0.0	29秒
死亡	1,197,012	1,141,865	55,147	9.5	9.1	0.4	26秒
自然増加	▲ 125,708	▲ 71,830	▲ 53,878	▲ 1.0	▲ 0.6	▲ 0.4	—
乳児死亡	2,450	2,556	▲ 106	2.3	2.4	▲ 0.1	3時間 34分 32秒
新生児死亡	1,167	1,254	▲ 87	1.1	1.2	▲ 0.1	7時間 30分 23秒
死産	26,560	27,005	▲ 445	24.2	24.6	▲ 0.4	19分 47秒
周産期死亡	4,515	4,519	▲ 4	4.2	4.2	0.0	1時間 56分 25秒
婚姻	700,214	707,734	▲ 7,520	5.5	5.6	▲ 0.1	45秒
離婚	251,378	253,353	▲ 1,975	1.99	2.01	▲ 0.02	2分 5秒

注: 率算出に用いた人口 人口推計「平成22年国勢調査による基準人口」(総務省統計局) 日本人口(全国) 126,381,728人
平成21年10月1日現在推計人口(総務省統計局) 日本人口(全国) 125,820,000人

2 出 生

(1) 出生数及び出生率

出生数は16,473人で前年の17,004人より531人減少し、出生率（人口千対）は8.3で、前年の8.6を0.3下回った。

出生率を年次推移で見ると、昭和48年の19.3から減少を続け、平成7年以降9点台で前年比増減を繰り返した後低下していたが、平成18年に8.9に上昇した。しかし、前年に引き続き、本年も8.3で減少している。

(2) 都道府県別にみた出生率

都道府県別に出生率をみると、本県の8.3は全国で23位であり、全国の8.5を0.2下回った。出生率の最も高い都道府県は沖縄県の12.3で、次いで愛知県、滋賀県の9.6となっている。また、最も低い都道府県は秋田県の6.2で、次いで青森県の7.1、高知県の7.2となっている。

3 死 亡

(1) 死亡数及び死亡率

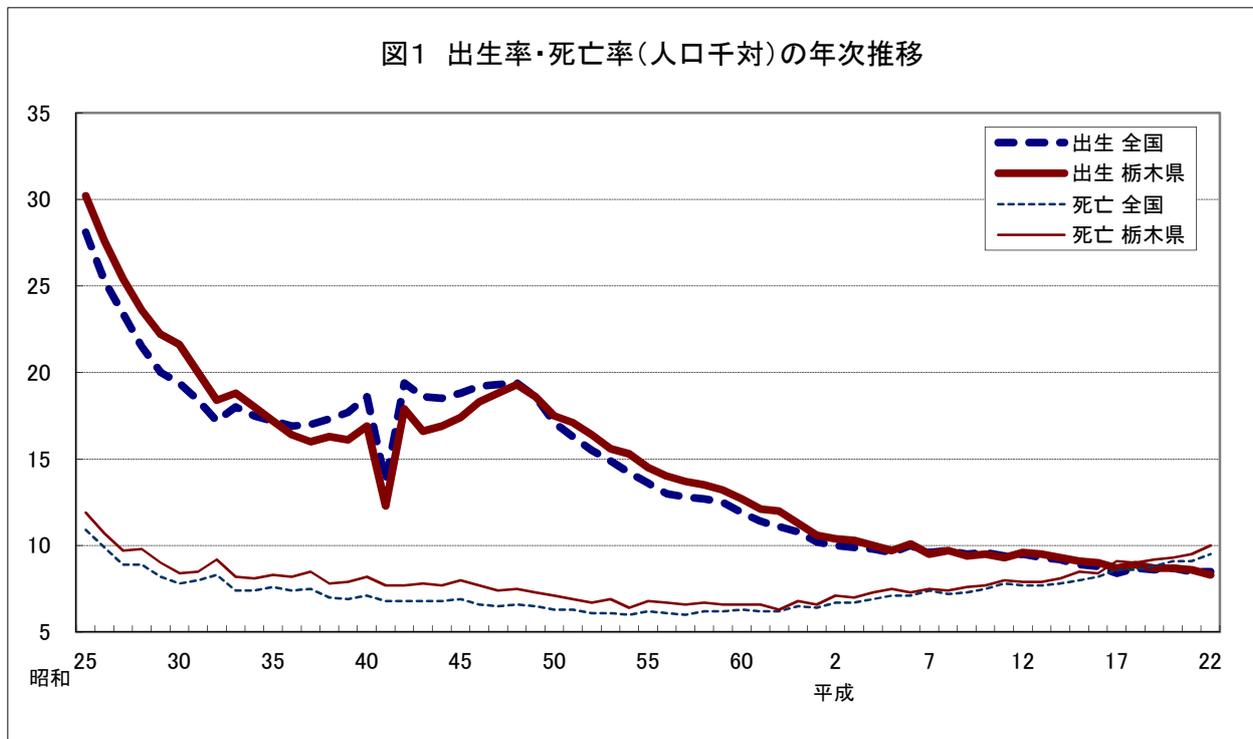
死亡数は19,712人で前年の18,777人より935人増加し、死亡率（人口千対）は10.0で前年の9.5を0.5上回った。

死亡率を年次推移で見ると、昭和62年に過去最低の6.3まで低下した後、前年比増減を繰り返しながらゆるやかに上昇しており、本年も10.0と上昇した。

(2) 都道府県別にみた死亡率

都道府県別に死亡率をみると、本県の10.0は全国で30位であり、全国の9.5より0.5上回った。

死亡率の最も高い都道府県は秋田県の13.2で、次いで高知県、島根県の12.8となっている。また、最も低い都道府県は沖縄県の7.3で、次いで神奈川県、埼玉県の7.8となっている。



資料：人口動態統計

(3) 死因別死亡

栃木県の死亡順位を性別にみると、男女とも第1位は悪性新生物、第2位は心疾患、第3位は脳血管疾患の順であった。

表3 性別死因順位、死亡数・率（人口10万対）の全国比較

[総数] 平成22年

栃木県	全 国	死 因	栃 木 県			全 国		
死 因 順 位			死 亡 数	死 亡 率	割 合	死 亡 数	死 亡 率	割 合
総数			19,712	995.2	100.0	1,197,012	947.1	100.0
1	1	悪性新生物	5,444	274.8	27.6	353,499	279.7	29.5
2	2	心疾患	3,332	168.2	16.9	189,360	149.8	15.8
3	3	脳血管疾患	2,392	120.8	12.1	123,461	97.7	10.3
4	4	肺炎	2,036	102.8	10.3	118,888	94.1	9.9
5	5	老衰	832	42.0	4.2	45,342	35.9	3.8
6	6	不慮の事故	660	33.3	3.3	40,732	32.2	3.4
7	7	自殺	495	25.0	2.5	29,554	23.4	2.5
8	8	腎不全	350	17.7	1.8	23,725	18.8	2.0
9	9	慢性閉塞性肺疾患	268	13.5	1.4	16,293	12.9	1.4
10	10	肝疾患	262	13.2	1.3	16,216	12.8	1.4

[男]

栃木県	全 国	死 因	栃 木 県			全 国		
死 因 順 位			死 亡 数	死 亡 率	割 合	死 亡 数	死 亡 率	割 合
総数			10,407	1056.7	100.0	633,700	1029.2	100.0
1	1	悪性新生物	3,235	328.5	31.1	211,435	343.4	33.4
2	2	心疾患	1,592	161.6	15.3	88,803	144.2	14.0
3	4	脳血管疾患	1,176	119.4	11.3	60,186	97.7	9.5
4	3	肺炎	1,024	104.0	9.8	63,569	103.2	10.0
5	5	不慮の事故	407	41.3	3.9	23,975	38.9	3.8
6	6	自殺	362	36.8	3.5	21,028	34.2	3.3
7	7	慢性閉塞性肺疾患	211	21.4	2.0	12,681	20.6	2.0
8	9	老衰	187	19.0	1.8	10,787	17.5	1.7
9	8	腎不全	181	18.4	1.7	11,035	17.9	1.7
10	10	肝疾患	174	17.7	1.7	10,619	17.2	1.7

[女]

栃木県	全 国	死 因	栃 木 県			全 国		
死 因 順 位			死 亡 数	死 亡 率	割 合	死 亡 数	死 亡 率	割 合
総数			9,305	934.4	100.0	563,312	869.2	100.0
1	1	悪性新生物	2,209	221.8	23.7	142,064	219.2	25.2
2	2	心疾患	1,740	174.7	18.7	100,557	155.2	17.9
3	3	脳血管疾患	1,216	122.1	13.1	63,275	97.6	11.2
4	4	肺炎	1,012	101.6	10.9	55,319	85.4	9.8
5	5	老衰	645	64.8	6.9	34,555	53.3	6.1
6	6	不慮の事故	253	25.4	2.7	16,757	25.9	3.0
7	7	腎不全	169	17.0	1.8	12,690	19.6	2.3
8	8	自殺	133	13.4	1.4	8,526	13.2	1.5
9	10	糖尿病	119	11.9	1.3	6,802	10.5	1.2
10	9	大動脈瘤及び解離	101	10.1	1.1	6,957	10.7	1.2

注：1) 率算出に用いた人口 人口推計「平成22年国勢調査による基準人口」（総務省統計局）

全 国 総数	126,381,728人	栃木県 総数	1,980,746人
男	61,571,727人	男	984,884人
女	64,810,001人	女	995,862人

2) 割合は死亡総数に対するものである。

(4) 三大死因

死亡数を三大死因別にみると、悪性新生物は 5,444人で前年より187人増加、心疾患は 3,332人で前年より165人増加、脳血管疾患は 2,392人で前年より1人増加となった。

表4 三大死因死亡数・率（人口10万対）の年次推移（栃木県）

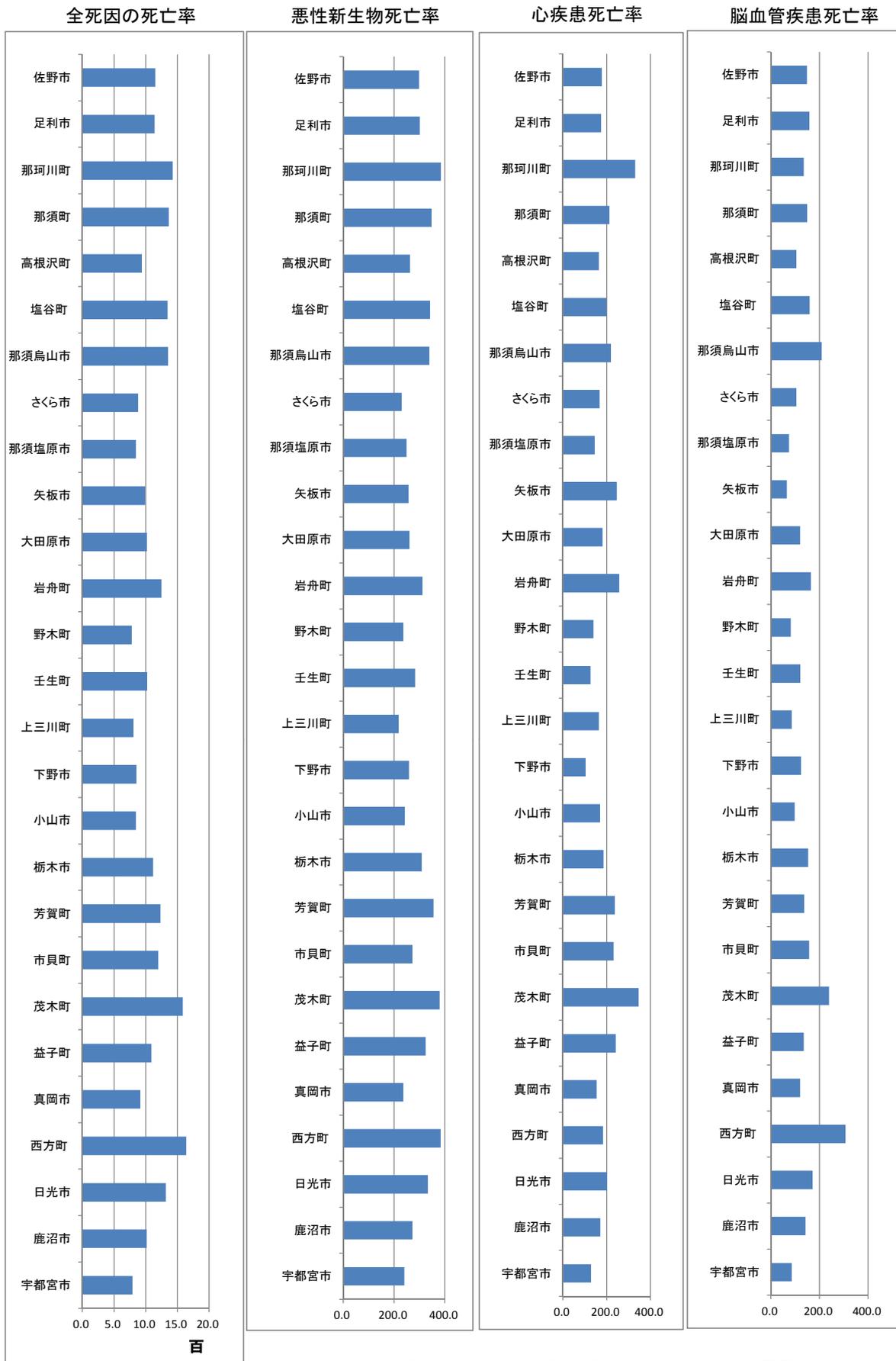
		三大死因計		悪性新生物		心疾患		脳血管疾患	
		数	率	数	率	数	率	数	率
昭和	30年	5,011	323.8	1,294	83.6	1,140	73.7	2,577	166.5
	35	5,943	392.6	1,689	111.6	1,304	86.2	2,950	194.9
	40	6,697	440.1	1,773	116.5	1,425	93.6	3,499	229.9
	45	7,213	457.0	1,891	119.8	1,536	97.3	3,786	239.9
	50	7,202	424.1	2,096	123.4	1,557	91.7	3,549	209.0
平成	55	7,750	430.9	2,424	134.8	1,936	107.6	3,390	188.5
	60	7,844	416.4	2,800	148.6	2,207	117.2	2,837	150.6
	2	8,402	436.3	3,302	171.5	2,617	135.9	2,483	128.9
	5	8,934	457.0	3,617	185.0	2,876	147.1	2,441	124.9
	6	8,761	446.5	3,793	193.3	2,541	129.5	2,427	123.7
	7	8,979	456.9	3,974	202.2	2,221	113.0	2,784	141.6
	8	9,102	461.1	4,119	208.7	2,309	117.0	2,674	135.5
	9	9,350	472.2	4,372	220.8	2,414	121.9	2,564	129.5
	10	9,414	474.3	4,440	223.7	2,365	119.1	2,609	131.4
	11	9,622	483.8	4,449	223.7	2,558	128.6	2,615	131.5
	12	9,559	481.9	4,568	230.3	2,497	125.9	2,494	125.7
	13	9,745	490.4	4,659	234.5	2,494	125.5	2,592	130.4
	14	9,803	493.6	4,633	233.3	2,547	128.2	2,623	132.1
	15	10,280	517.6	4,918	247.6	2,713	136.6	2,649	133.4
	16	10,175	512.1	4,895	246.4	2,774	139.6	2,506	126.1
	17	10,668	536.0	4,989	250.7	3,046	153.0	2,633	132.3
	18	10,624	534.4	5,167	259.9	2,968	149.3	2,489	125.2
19	10,799	544.0	5,293	266.6	3,022	152.2	2,484	125.1	
20	10,711	540.7	5,248	264.9	3,081	155.5	2,382	120.2	
21	10,815	547.0	5,257	265.9	3,167	160.2	2,391	120.9	
22	11,168	563.8	5,444	274.8	3,332	168.2	2,392	120.8	

表5 三大死因死亡数・率（人口10万対）の年次推移（全国）

		三大死因計		悪性新生物		心疾患		脳血管疾患	
		数	率	数	率	数	率	数	率
昭和	30年	243,576	284.0	77,721	87.1	54,351	60.9	111,504	136.1
	35	312,282	334.3	93,773	100.4	68,400	73.2	150,109	160.7
	40	354,981	361.2	106,536	108.4	75,672	77.0	172,773	175.8
	45	390,703	378.9	119,977	116.3	89,411	86.7	181,315	175.8
	50	409,976	368.5	136,383	122.6	99,226	89.2	174,367	156.7
平成	55	447,586	384.8	161,764	139.1	123,505	106.2	162,317	139.5
	60	463,805	385.6	187,714	156.1	141,097	117.3	134,994	112.2
	2	504,835	411.4	217,413	177.2	165,478	134.8	121,944	99.4
	5	534,798	432.0	235,707	190.4	180,297	145.6	118,794	96.0
	6	523,488	421.9	243,670	196.4	159,579	128.6	120,239	96.9
	7	548,780	440.0	263,022	211.6	139,206	112.0	146,552	117.9
	8	549,778	440.8	271,183	217.5	138,229	110.8	140,366	112.6
	9	554,284	443.6	275,413	220.4	140,174	112.2	138,697	110.0
	10	564,860	451.0	283,921	226.7	143,120	114.3	137,819	110.0
	11	580,624	462.8	290,556	231.6	151,079	120.4	138,989	110.8
	12	574,754	457.6	295,484	235.2	146,741	116.8	132,529	105.5
	13	580,806	461.3	300,658	238.8	148,292	117.8	131,856	104.7
	14	587,343	466.1	304,568	241.7	152,518	121.0	130,257	103.4
	15	601,155	476.6	309,543	245.4	159,545	126.5	132,067	104.7
	16	609,038	482.7	320,358	253.9	159,625	126.5	129,055	102.3
	17	631,913	500.7	325,941	258.3	173,125	137.2	132,847	105.3
	18	630,606	499.9	329,314	261.0	173,024	137.2	128,268	101.7
19	639,048	506.8	336,468	266.6	175,539	139.2	127,041	100.8	
20	651,914	517.6	342,963	272.3	181,928	144.4	127,023	100.9	
21	647,200	514.4	344,105	273.5	180,745	143.7	122,350	97.2	
22	666,320	527.2	353,499	279.7	189,360	149.8	123,461	97.7	

注：率算出に用いた人口 人口推計「平成22年国勢調査による基準人口」（総務省統計局） 資料：人口動態統計

図2 市町村別三大死因の死亡率(人口10万対)(平成22年)



* 資料:3統計表 第1章人口動態統計 第10節特定死因 第1-10-6 より

表6 死因順位及び死亡率（人口10万対）の年次推移（栃木県）

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	第6位	第7位	第8位	第9位	第10位
昭和30	中枢神経系の血管損傷 166.5	悪性新生物 83.6	心臓の疾患 73.7	老 衰 64.0	胃炎,十二指腸炎,腸炎,大腸炎 46.5	新生児固有の疾患,性質不明の未熟児 44.7	全 結 核 39.6	肺 炎 34.8	不慮の障害 30.7	自殺及び自傷 22.9
35	中枢神経系の血管損傷 194.9	悪性新生物 111.6	心臓の疾患 86.2	肺炎・気管支炎 57.3	老 衰 41.2	不慮の事故 40.8	胃炎,十二指腸炎,腸炎,大腸炎 32.4	全 結 核 22.7	新生児固有の疾患,性質不明の未熟児 20.7	肺炎・ネフローゼ 19.7
40	中枢神経系の血管損傷 229.0	悪性新生物 116.5	心臓の疾患 93.6	不慮の事故 43.2	老 衰 42.8	肺炎・気管支炎 41.8	高血圧性疾患 23.2	胃炎,十二指腸炎,腸炎,大腸炎 21.7	全 結 核 16.1	新生児固有の疾患,性質不明の未熟児 14.5
45	脳血管疾患 239.9	悪性新生物 119.8	心 疾 患 97.3	不慮の事故 54.1	肺炎・気管支炎 47.9	老 衰 33.6	喘 息 15.3	高血圧性疾患 14.7	自 殺 14.2	全 結 核 13.1
50	脳血管疾患 209.0	悪性新生物 123.4	心 疾 患 91.7	肺炎・気管支炎 42.6	不慮の事故 37.8	老 衰 24.9	高血圧性疾患 18.4	自 殺 17.3	肝 硬 変 12.0	喘 息 11.5
55	脳血管疾患 188.5	悪性新生物 134.8	心 疾 患 107.6	肺炎・気管支炎 37.5	不慮の事故 30.4	老 衰 24.5	自 殺 19.1	肝 硬 変 13.3	高血圧性疾患 12.7	肺炎・ネフローゼ 7.7
60	脳血管疾患 150.6	悪性新生物 148.6	心 疾 患 117.2	肺炎・気管支炎 42.4	不慮の事故 27.4	自 殺 21.9	老 衰 20.5	肝 硬 変 12.8	高血圧性疾患 11.4	肺炎・ネフローゼ症候群及びネフローゼ 8.7
平成2	悪性新生物 171.5	心 疾 患 135.9	脳血管疾患 128.9	肺炎・気管支炎 66.3	不慮の事故 30.0	老 衰 22.6	自 殺 18.5	肝 硬 変 13.2	肺炎・ネフローゼ症候群及びネフローゼ 10.7	高血圧性疾患 8.5
7	悪性新生物 202.2	脳血管疾患 141.6	心 疾 患 113.0	肺 炎 63.7	不慮の事故 31.9	自 殺 18.7	老 衰 17.2	肝 疾 患 13.0	糖 尿 病 12.3	慢性閉塞性肺疾患 12.1
10	悪性新生物 223.7	脳血管疾患 131.4	心 疾 患 119.1	肺 炎 63.7	不慮の事故 29.5	自 殺 25.4	老 衰 21.1	腎 不 全 13.7	肝 疾 患 12.7	糖 尿 病 10.6
11	悪性新生物 223.7	脳血管疾患 131.5	心 疾 患 128.6	肺 炎 79.0	不慮の事故 31.1	自 殺 25.0	老 衰 20.7	肝 疾 患 13.3	腎 不 全 12.4	慢性閉塞性肺疾患 11.1
12	悪性新生物 230.3	心 疾 患 125.9	脳血管疾患 125.7	肺 炎 72.8	不慮の事故 32.1	自 殺 25.6	老 衰 18.6	肝 疾 患 12.7	腎 不 全 11.0	慢性閉塞性肺疾患 11.0
13	悪性新生物 234.5	脳血管疾患 130.4	心 疾 患 125.5	肺 炎 66.7	不慮の事故 31.7	自 殺 25.7	老 衰 20.6	肝 疾 患 11.3	腎 不 全 11.3	糖 尿 病 10.3
14	悪性新生物 233.3	脳血管疾患 132.1	心 疾 患 128.2	肺 炎 74.0	不慮の事故 30.5	自 殺 23.4	老 衰 20.8	肝 疾 患 12.1	腎 不 全 11.5	糖 尿 病 11.3
15	悪性新生物 247.6	心 疾 患 136.6	脳血管疾患 133.4	肺 炎 78.5	不慮の事故 30.0	自 殺 26.3	老 衰 21.0	腎 不 全 16.2	肝 疾 患 12.2	糖 尿 病 12.1
16	悪性新生物 246.4	心 疾 患 140	脳血管疾患 126.1	肺 炎 79.9	不慮の事故 30.1	自 殺 22.5	老 衰 20.4	腎 不 全 16.1	糖 尿 病 12.5	肝 疾 患 12.1
17	悪性新生物 250.7	心 疾 患 153	脳血管疾患 132.3	肺 炎 96.2	不慮の事故 34.4	自 殺 26.8	老 衰 24.9	腎 不 全 15.4	肝 疾 患 13.5	糖 尿 病 11.2
18	悪性新生物 259.9	心 疾 患 149.3	脳血管疾患 125.2	肺 炎 89.9	不慮の事故 31.3	自 殺 29	老 衰 24.8	腎 不 全 17.2	肝 疾 患 13.7	糖 尿 病 13
19	悪性新生物 266.6	心 疾 患 152.2	脳血管疾患 125.1	肺 炎 90.5	不慮の事故 29.9	自 殺 29.2	老 衰 26.6	腎 不 全 16.2	肝 疾 患 13.2	糖 尿 病 12.2
20	悪性新生物 264.9	心 疾 患 155.5	脳血管疾患 120.2	肺 炎 96.8	老 衰 37.1	不慮の事故 29.4	自 殺 26.8	腎 不 全 18.1	糖 尿 病 11.8	慢性閉塞性肺疾患 11.5
21	悪性新生物 265.9	心 疾 患 160.2	脳血管疾患 120.9	肺 炎 95.3	老 衰 36.5	不慮の事故 29.4	自 殺 27.8	腎 不 全 17.4	肝 疾 患 13.1	糖 尿 病 12.4
22	悪性新生物 274.8	心 疾 患 168.2	脳血管疾患 120.8	肺 炎 102.8	老 衰 42.0	不慮の事故 33.3	自 殺 25.0	腎 不 全 17.7	慢性閉塞性肺疾患 13.5	肝 疾 患 13.2

4 乳児死亡及び新生児死亡

(1) 乳児死亡数及び乳児死亡率、新生児死亡数及び新生児死亡率

乳児死亡数は34人で前年の43人より9人減少し、乳児死亡率（出生千対）は2.1で、前年の2.5より0.4下回った。

また、乳児死亡のうち新生児死亡数は15人で、前年の26人より11人減少し、新生児死亡率（出生千対）は0.9で、前年の1.5より0.6下回った。

乳児死亡率及び新生児死亡率を年次推移でみると、両率とも減少傾向を呈しており、本年の乳児死亡率及び新生児死亡率は過去最低となった。

(2) 都道府県別にみた乳児死亡率及び新生児死亡率

都道府県別に乳児死亡率をみると、本県の2.1は全国で40位であり、全国の2.3より0.2下回った。乳児死亡率の最も高い都道府県は鳥取県の5.0で、次いで長崎県の3.2となっている。

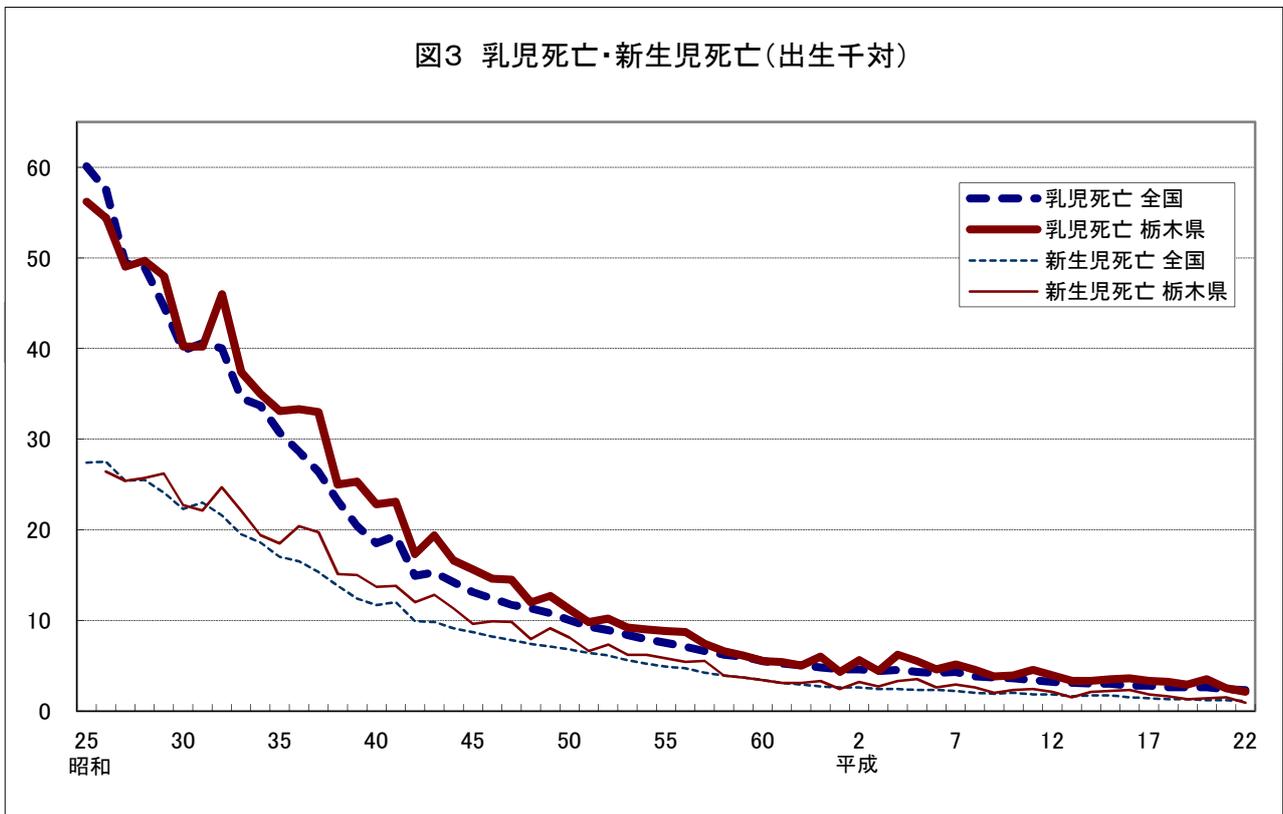
また、最も低い都道府県は山梨県の1.1で、次いで宮崎県の1.4となっている。

新生児死亡率については、本県の0.9は全国で36位であり、全国の1.1より0.2下回っている。

新生児死亡率の最も高い都道府県は鳥取県の2.5で、次いで石川県の1.8となっている。

また、最も低い都道府県は山梨県の0.3で、次いで宮崎県の0.4となっている。

図3 乳児死亡・新生児死亡(出生千対)



5 死 産

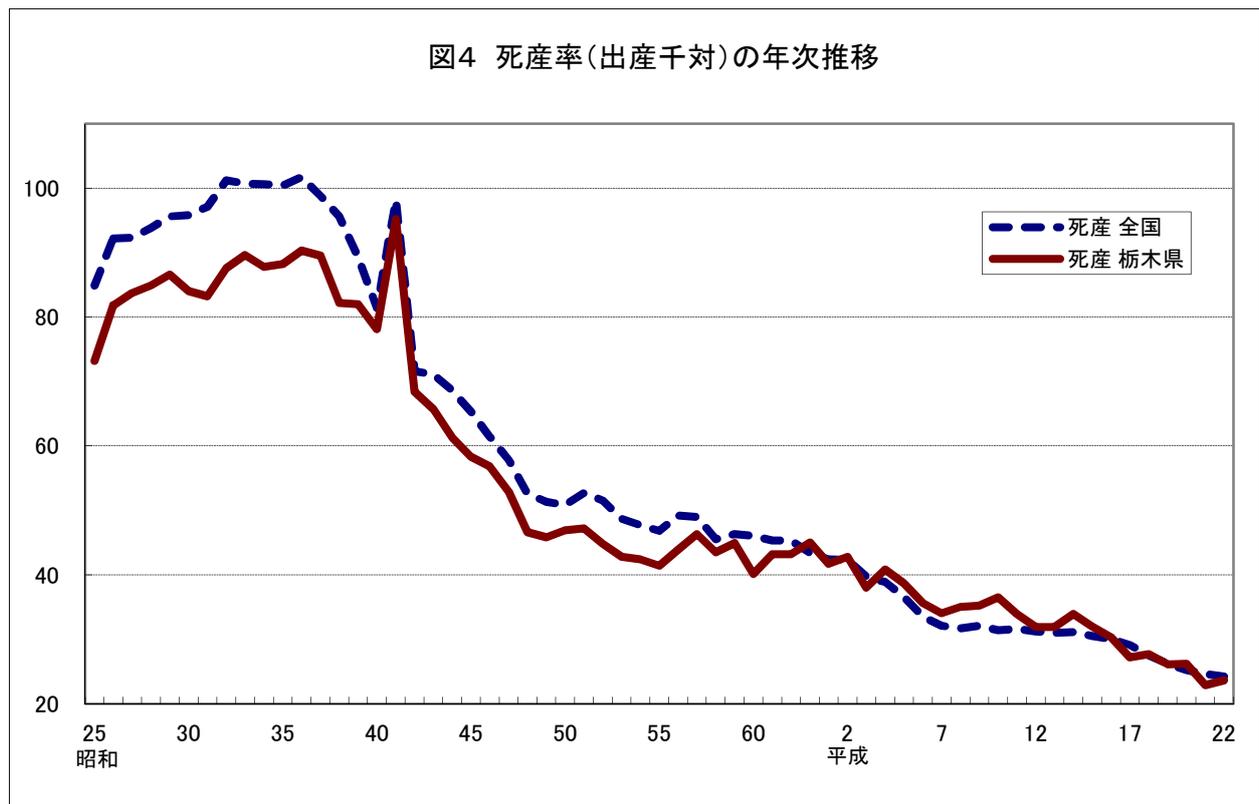
(1) 死産数及び死産率

死産数は398胎で前年の399胎より1胎減少したが、死産率（出産千対）は23.6で、前年の22.9を0.7上回った。

死産率を年次推移でみると、昭和41年の95.2をピークに減少を続けてきたが、本年は過去最低となった前年を上回った。

(2) 都道府県別にみた死産率

都道府県別に死産率をみると、本県の23.6は全国で29位であり、全国の24.2より0.6下回った。死産率の最も高い都道府県は沖縄県の31.7で、次いで北海道の30.4となっている。また、最も低い都道府県は愛知県の19.7で、次いで神奈川県の上20.9となっている。



6 婚 姻

(1) 婚姻数及び婚姻率

婚姻数は10,616組で前年の10,687組より71組減少したが、婚姻率（人口千対）は5.4で前年と同じであった。

婚姻率を年次推移でみると、昭和48年の9.8をピークに減少を続け、昭和62～平成元年に過去最低となる5.6が続きその後は微増したが、本年は前年と同じく過去最低となった。

(2) 都道府県別にみた婚姻率

都道府県別に婚姻率をみると、本県の5.4は全国で13位であり、全国の5.5を0.1下回った。婚姻率の最も高い都道府県は東京都の7.1で、次いで沖縄県の6.4となっている。また、最も低い都道府県は秋田県の4.0で、次いで岩手県、青森県の4.3となっている。

7 離 婚

(1) 離婚数及び離婚率

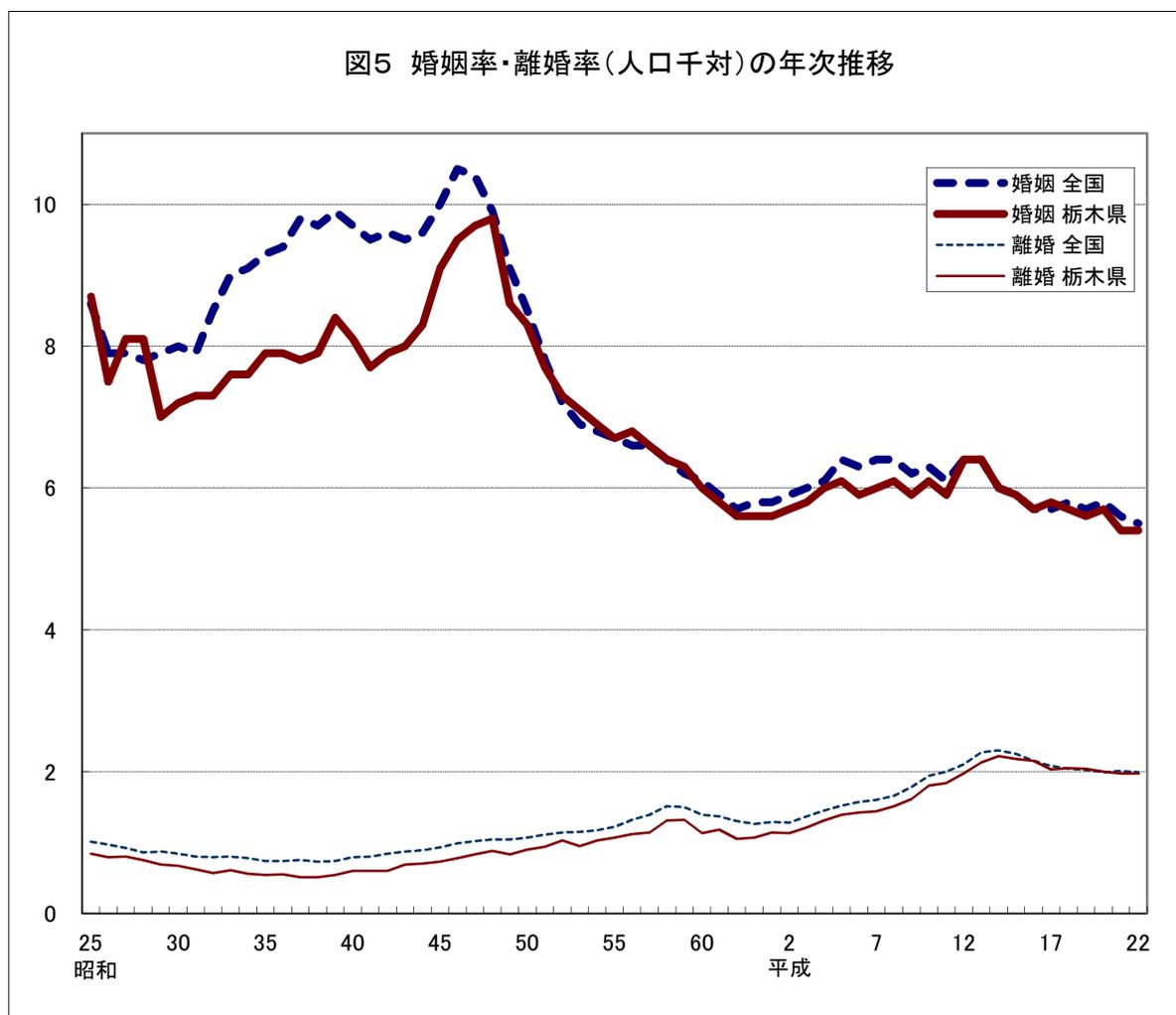
離婚数は3,898組で前年の3,888組より10組増加したが、離婚率（人口千対）は1.97で前年と同じであった。

離婚率を年次推移で見ると、昭和37・38年に過去最低の0.51となった後増加を続け、平成14年の2.22をピークに微減傾向が続いている。

(2) 都道府県別にみた離婚率

都道府県別に離婚率をみると、本県の1.97は全国で15位であり、全国の1.99より0.02下回った。離婚率の最も高い都道府県は沖縄県の2.58で、次いで大阪府の2.39となっている。

また、最も低い都道府県は、富山県の1.45で、次いで新潟県の1.46となっている。



8 生命表

(1) 主な年齢の平均余命

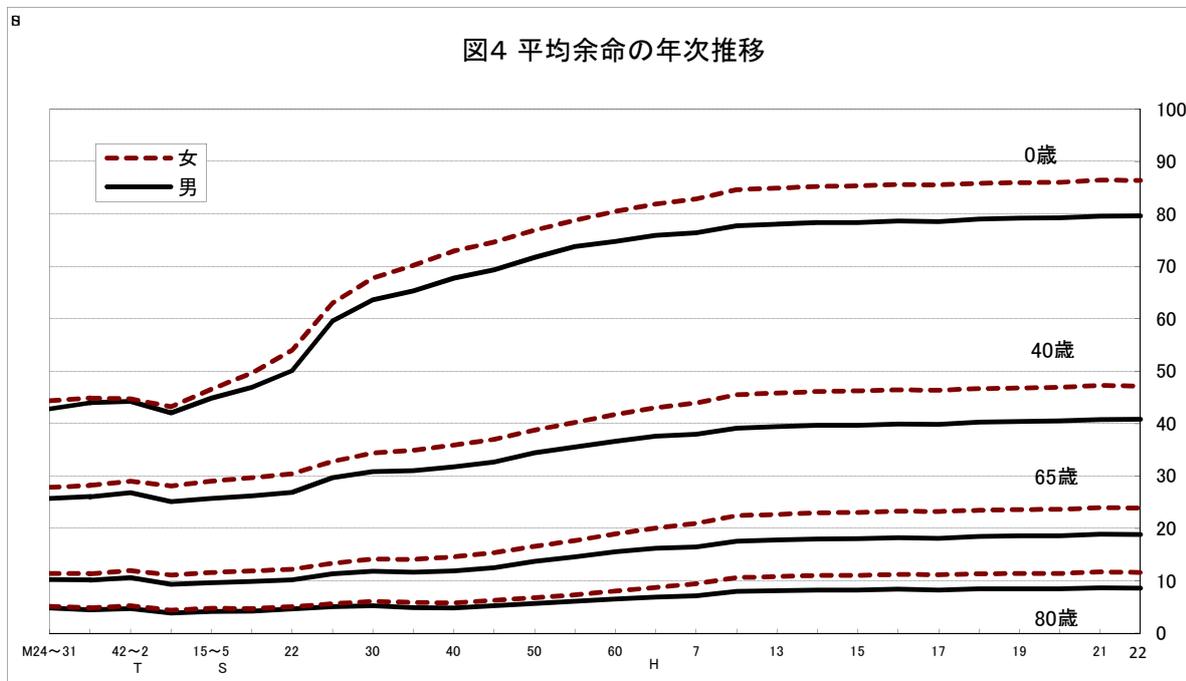
平成22年簡易生命表によると、男の平均寿命は79.64年で前年を0.05年上回って過去最高となったが、女は86.39年と前年の86.44年を0.05年下回った。主な年齢の平均余命をみると、男女とも年齢が高くなるに従って前年との差は小さくなる傾向となっており、特に女の平均余命は全年齢で前年を下回った。また、平均寿命の男女差は、6.75年で前年より0.10年縮小した。（表7）

表7 主な年齢の平均余命とその伸び（全国）

(単位：年)

年齢	男			女			男女差（女-男）		
	H22年 (A)	H21年 (B)	伸び (A-B)	H22年 (C)	H21年 (D)	伸び (C-D)	H22年 E (C-A)	H21年 E (C-A)	差 (E-F)
0歳	79.64	79.59	0.05	86.39	86.44	-0.05	6.75	6.85	△ 0.10
5歳	74.90	74.87	0.03	81.64	81.69	-0.05	6.74	6.82	△ 0.08
10歳	69.94	69.90	0.04	76.67	76.73	-0.06	6.73	6.83	△ 0.10
15歳	64.98	64.93	0.05	71.70	71.75	-0.05	6.72	6.82	△ 0.10
20歳	60.07	60.04	0.03	66.75	66.81	-0.06	6.68	6.77	△ 0.09
25歳	55.24	55.20	0.04	61.83	61.90	-0.07	6.59	6.70	△ 0.11
30歳	50.41	50.37	0.04	56.92	57.00	-0.08	6.51	6.63	△ 0.12
35歳	45.59	45.55	0.04	52.03	52.11	-0.08	6.44	6.56	△ 0.12
40歳	40.81	40.78	0.03	47.17	47.25	-0.08	6.36	6.47	△ 0.11
45歳	36.10	36.09	0.01	42.36	42.44	-0.08	6.26	6.35	△ 0.09
50歳	31.51	31.51	0.00	37.61	37.70	-0.09	6.10	6.19	△ 0.09
55歳	27.07	27.09	-0.02	32.95	33.04	-0.09	5.88	5.95	△ 0.07
60歳	22.84	22.87	-0.03	28.37	28.46	-0.09	5.53	5.59	△ 0.06
65歳	18.86	18.88	-0.02	23.89	23.97	-0.08	5.03	5.09	△ 0.06
70歳	15.08	15.10	-0.02	19.53	19.61	-0.08	4.45	4.51	△ 0.06
75歳	11.58	11.63	-0.05	15.38	15.46	-0.08	3.80	3.83	△ 0.03
80歳	8.57	8.66	-0.09	11.59	11.68	-0.09	3.02	3.02	△ 0.00
85歳	6.18	6.27	-0.09	8.30	8.41	-0.11	2.12	2.14	△ 0.02
90歳	4.41	4.48	-0.07	5.76	5.86	-0.10	1.35	1.38	△ 0.03
95歳	3.17	3.24	-0.07	4.06	4.13	-0.07	0.89	0.89	0.00
100歳	2.30	2.36	-0.06	3.00	3.01	-0.01	0.70	0.65	0.05

資料：平成21年、平成22年簡易生命表



資料：明治24年～平成7年、平成12年・平成17年は完全生命表、平成10年～平成11年・平成13年～平成16年・平成18年～平成22年は簡易生命表による。

(2) 特定死因を除去した場合の平均余命の伸び

ある死因が克服された場合、その死因によって死亡していた者は、その死亡年齢以後に他の死因で死亡することになる。その結果死亡時期が繰り越され、平均余命が延びることになる。この伸びは、その死因のために失われた平均余命としてみる事ができ、これによって各死因がどの程度平均余命に影響しているかを測ることができる。

表8 特定死因を除去した場合の平均余命の伸び（0歳・65歳・75歳・90歳）（全国）

（単位：年）

主な死因	年齢	男					女				
		平成18年	19年	20年	21年	22年	平成18年	19年	20年	21年	22年
悪性新生物	0歳	4.02	4.04	3.99	3.98	3.91	3.01	3.01	3.01	3.03	3.01
	65	3.09	3.12	3.09	3.11	3.05	2.03	2.03	2.03	2.07	2.04
	75	2.07	2.10	2.09	2.12	2.08	1.41	1.42	1.42	1.46	1.43
	90	0.58	0.60	0.59	0.63	0.60	0.45	0.45	0.45	0.48	0.47
心疾患 (高血圧性を除く)	0歳	1.57	1.55	1.54	1.55	1.51	1.66	1.65	1.64	1.65	1.61
	65	1.21	1.20	1.19	1.19	1.17	1.56	1.57	1.56	1.56	1.54
	75	1.03	1.02	1.01	1.02	1.00	1.47	1.47	1.47	1.48	1.46
	90	0.68	0.69	0.69	0.69	0.68	1.01	1.03	1.04	1.09	1.06
脳血管疾患	0歳	1.09	1.06	1.02	1.00	0.96	1.19	1.15	1.10	1.06	0.99
	65	0.90	0.88	0.84	0.82	0.78	1.09	1.05	1.00	0.96	0.90
	75	0.79	0.77	0.73	0.71	0.68	1.01	0.97	0.93	0.89	0.83
	90	0.46	0.45	0.41	0.41	0.38	0.64	0.64	0.61	0.59	0.55
肺炎	0歳	0.92	0.94	0.93	0.91	0.90	0.84	0.83	0.83	0.80	0.79
	65	0.97	0.98	0.97	0.95	0.93	0.85	0.84	0.83	0.81	0.79
	75	1.00	1.01	0.99	0.97	0.95	0.85	0.84	0.83	0.81	0.79
	90	0.86	0.91	0.86	0.83	0.80	0.72	0.71	0.70	0.69	0.67
不慮の事故	0歳	0.61	0.58	0.56	0.55	0.56	0.35	0.35	0.33	0.33	0.34
	65	0.24	0.24	0.24	0.24	0.25	0.21	0.21	0.21	0.21	0.22
	75	0.19	0.18	0.18	0.19	0.19	0.17	0.17	0.17	0.17	0.18
	90	0.09	0.09	0.09	0.09	0.09	0.08	0.08	0.08	0.09	0.09
交通事故(再掲)	0歳	0.23	0.20	0.18	0.17	0.17	0.09	0.09	0.07	0.07	0.07
	65	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03
	75	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
	90	0.00	0.01	0.00	0.01	0.00	0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
自殺	0歳	0.76	0.77	0.78	0.81	0.77	0.35	0.36	0.36	0.36	0.35
	65	0.09	0.10	0.09	0.09	0.09	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
	75	0.04	0.04	0.04	0.04	0.04	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03
	90	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
腎不全	0歳	0.15	0.15	0.15	0.16	0.15	0.18	0.18	0.18	0.18	0.18
	65	0.14	0.14	0.15	0.15	0.14	0.18	0.18	0.18	0.18	0.17
	75	0.13	0.14	0.14	0.14	0.14	0.17	0.17	0.17	0.17	0.16
	90	0.10	0.10	0.10	0.11	0.10	0.12	0.12	0.11	0.12	0.11
肝疾患	0歳	0.25	0.24	0.23	0.23	0.23	0.12	0.12	0.12	0.12	0.12
	65	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10	0.08	0.08	0.08	0.08	0.08
	75	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05	0.06	0.06	0.06	0.06	0.05
	90	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02
糖尿病	0歳	0.13	0.13	0.13	0.13	0.13	0.12	0.12	0.11	0.11	0.11
	65	0.09	0.09	0.10	0.09	0.09	0.10	0.10	0.10	0.10	0.10
	75	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06	0.08	0.08	0.09	0.08	0.08
	90	0.02	0.02	0.02	0.03	0.03	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04
高血圧性疾患	0歳	0.03	0.04	0.04	0.04	0.04	0.06	0.06	0.05	0.06	0.06
	65	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.06	0.06	0.06	0.06	0.06
	75	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.06	0.06	0.05	0.06	0.06
	90	0.03	0.03	0.03	0.03	0.03	0.05	0.05	0.05	0.05	0.05
結核	0歳	0.03	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
	65	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
	75	0.02	0.02	0.02	0.02	0.02	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
	90	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01	0.01
3大死因 (悪性新生物) (心疾患) (脳血管疾患)	0歳	8.31	8.25	8.10	8.04	7.81	7.20	7.12	7.00	6.99	6.78
	65	6.67	6.64	6.51	6.48	6.30	5.91	5.86	5.75	5.75	5.55
	75	5.11	5.10	4.99	5.00	4.83	5.00	4.97	4.86	4.89	4.70
	90	2.31	2.32	2.24	2.30	2.18	2.74	2.77	2.72	2.78	2.67

注：3大死因のそれぞれの死因を単独に除去した場合には、その他の2死因は除去されていない（例えば、悪性新生物を除去したとしても心疾患や脳血管疾患での死亡はあるものとする）ことから、3大死因のそれぞれの死因を除去した場合の平均余命の伸びを合計したものは、3大死因を同時に除去した場合の平均余命の伸びよりも小さいものとなる。